

令和元年度事業計画

[はじめに]

我が国は少子高齢化が進展しており、団塊世代が75歳以上となる2025年には医療や介護の需要増加が見込まれ介護人材の確保は喫緊の課題となっています。2025年以降は「高齢者の急増」から「現役世代の急減」に局面が変化し団塊ジュニアが65歳以上となる2040年には現役世代の減少が最大の課題となっています。そのような背景の中、長く元気に活躍できるように高齢者をはじめとした多様な就労や社会参加の環境整備、健康寿命の延伸、医療・福祉サービスの改革による生産性の向上等が求められています。

公益社団法人長寿社会文化協会では、介護人材育成、社会参加等による生き甲斐づくり、地域の活性化また生活支援・介護予防事業などの分野において牽引的役割を發揮し、明るく元気で活力ある長寿社会の構築と発展に寄与することを目指しています。

令和元年度は、公益事業では「千葉県福祉ふれあいプラザ指定管理事業」が第四期指定管理の初年度がスタートします。千葉県高齢者福祉計画に沿って重点課題に取り組めるよう自治体や地域包括支援センターと情報を共有化し課題に応える事業を進めていきます。また、「みなと*しごと55」は都内アクティブシニア就業支援センターでトップクラスを維持するとともにWAC本部と連携しながら特色ある取組みを実施していきます。また「第三者評価事業」においては収益確保できる体制づくりを目指します。そして「コミュニティカフェ事業」は開設講座のほかにコミュニティカフェ受講生のネットワークづくりを立ち上げ会員拡大へ繋げていきます。

一方、収益事業である「研修事業」「疑似体験事業」は収益基盤強化を図ります。「研修事業」は、初任者研修、生活支援サービス研修を軸に展開し、生活援助従事者研修を新たな切り口として収益拡大を目指します。「高齢者疑似体験事業」については中学校の家庭科に「介護」が追加されることから中学校・自治体へ「高齢者疑似体験研修」導入を企画・提案し新たなマーケット創出を図るとともにうらしま既存顧客の掘り起こし又地方の主要都市におけるWACポイントと連携したインストラクター養成研修開催等により顧客拡大を図ります。また「認知症疑似体験事業」については事業拡大に向けインストラクター養成を強化し「認知症疑似体験プログラム」のリニューアルに着手していきます。

そして、WACポイント活動への支援また新規事業の開発に取り組んでいきます。

会員に関して

会員拡大は本協会の喫緊の課題であり、新規会員獲得、既存会員の退会防止に向け会報誌等を通じて会員に役立つ情報提供をするなど魅力あるWACとなるように努力していきます。また「コミュニティカフェ事業」においてネットワークづくりを行い個人会員拡大を目指します。また、法人会員については、「研修事業」「高齢者・認知症疑似体験事業」等により新規法人会員の拡大を図っていきます。

(単位=千円)

収入予算
4,000

* 会員拡大のための必要経費あれば一般管理費より支出

事業に関して

【公益目的事業】

〔公1事業〕

〈高齢者福祉増進・啓発事業〉

○高齢者の福祉・健康・生きがいづくり等支援事業

(千葉県福祉ふれあいプラザ指定管理)

2019年度は、第4期指定管理(2019年4月1日～2022年3月31日)の初年度になります。千葉県高齢者保健福祉計画の基本理念・施策の推進方策に沿って重点課題(地域包括ケアシステムの構築など)に取り組めるよう自治体や地域包括支援センターの現状を把握して課題に応える事業を進めます。第3期に国際医療福祉大学の実習生受け入れなど新たな使命が加わりましたが、第4期は既に千葉県から中学校教職員研修の依頼が来ています。学習指導要領の改正によって中学家庭科に「介護」が新たに加わったための研修です。時代と地域に添った事業を展開します。

また、2019年度は消費税率引き上げに伴い利用料の改定を行い、利用料収入の増加を目指しますが、経費削減に努めて収支の適正化を図ります。

1) 介護実習センター

市町村との連携を深め地域の実情に合った出張県民研修を積極的に行います。高齢者の居場所づくりとして実施している「地域の茶の間」「認知症の人と家族の集い」は、地域包括支援センターとの連携を深めて充実を図ります。高齢者でもできる地域助け合い活動や介護予防・認知症について啓発に努め、介護相談事業と合わせた取組みを強化します。

2) 介護予防トレーニングセンター

千葉県から利用者数43,000人の目標値が設定されています。近年、トレーニングマシンの経年劣化により使用不可のマシンが増えて利用者減の遠因になっていましたが、この度、県予算が付き6台の買替が実現しました。また、医療系大学学生の実習受入は3年目に入り大学と連携して実習成果をHPで発表していきます。

3) ふれあいホール

引き続き利用者満足度の向上を図るとともに、高齢者に配慮したサポート、安全管理を行い

- ・事務局業務・評価者連携等のヒヤリハットの分析・再発防止策々定
- (4) 規程・マニュアル整理

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
10,000	10,000	0

○長寿社会の啓発事業

(「ふれあいねっと(会員向け情報誌)」の発行)

会報誌「ふれあいねっと」は、平成30年度は年3回の発行に留まりましたが、令和元年度は会員と本部を繋ぐ情報誌として定期発行を目指します。また、掲載記事も本部事業の活動報告、全国のポイント・ネットワークセンターの活動紹介だけでなく、会員以外の人たちも興味を持ちそうな記事も掲載していきます。同時に、魅力あるホームページへのリニューアル、コミュニティカフェ・ブログ、フェイスブック、メールマガジンを充実し、広報活動の強化を図っていきます。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
0	1,200	△1,200

【公2事業】

≪高齢者の雇用・支援事業≫

(「みなと*しごと55」港区アクティブシニア就業支援センター)

令和元年度は昨年を引き続き、人手不足等の影響もあり、求人は増加傾向にあります。求職者にとっては、自力就業の機会が増え、その影響もあり来所求職者数が減少傾向にあります。

このような環境の中、具体的取り組みとして、求職者増のために、港区や他団体との協力体制の強化、広報みなと等への告知、ポスティング、新聞折り込み、ホームページの拡充等によりさらに認知度を高めるとともに、多くの求職者が集まるように魅力ある企画を実施していくと共に、一人一人のマッチングの制度を高めていくことに努力していきます。

<目標>

就職数：240人 求人開拓件数：1,600件 求人開拓延人数：3,500人
 求職者数：2,200人(新規：1,000人、再来：1,200人)

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
24,810	24,810	0

【公3事業】

《地域の相互扶助機能活性化事業》

（コミュニティカフェ）

平成30年度はコミュニティカフェ1day講座を東京で2期、千葉県ふれあい福祉プラザの出張県民研修として1期行いました。

令和元年度は、他団体との連携によりコミュニティカフェ開設講座を2期開催し、自治体の講座の企画・運営、講師派遣にも取り組んでいきます。

また、コミュニティカフェの運営・交流支援を行う「全国コミュニティカフェネットワーク・センター」（仮称）を立ち上げ、WAC会員拡大を目指します（2019年度初年度会員獲得目標50人）

◎運営会費：2,000円（ほかにWACの正会員として10,000円または賛助会員として3,000円必要
<会員メリット>

- ・カフェ運営者向け講座の開催
- ・認知症カフェ、ケアラーズカフェ向け「認知症疑似体験インストラクター研修」の開催
- ・税務、リフォーム、宣伝等の相談
- ・コミュニティカフェ関連情報提供
- ・運営者交流会の開催

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
1,100	700	400

【収益目的事業】

【収1事業】

《高齢者福祉関係人材育成事業》

・生活支援サービス研修

昨年度に引き続き日常生活支援研修を実施していきます。

東京しごと財団より生活支援サービス研修を受託し年6回の研修を行います。

収入予算 1,450千円

・八王子市介護人材養成研修事業業務委嘱

生活支援ヘルパー研修（年2回）と入門的研修（年2回）を行い、研修修了後に就職相談会を開催します。

収入予算 4,365千円

・シニア生涯ワーキングセミナー委託事業

東京しごと財団より就労支援に向けた研修を受託しシニアワーキングセミナーを行います。
収入予算 22,115 千円

・就職相談会事業

八王子市内の介護サービス事業所や障害者福祉事業所との就職相談会を開催します。
年 2 回 6 月 21 日、10 月 20 日に開催
収入予算 2,010 千円

・介護職員初任者研修（通信）

東京都社会福祉協議会 介護職員初任者研修資格取得支援事業
開催日時： 令和元年 7 月 1 日～年 3 回開催予定
東京都社会福祉協議会から受講生名につき 11 万円の補助あり
定員 18 名／1 回
収入予算 5,940 千円（11 万円×18 名×3 回）

・生活支援従事者研修（通信）

訪問介護における生活援助中心のサービスに従事するための必要な知識等に対応した研修を開催。
定員 1 回 12 名 5 日間の講義
収入予算 360 千円（3 万円×12 名）

(単位=千円)

	収入予算	支出予算	収支残
受託研修	30,000	21,000	9,000
受託研修（県民研修）	4,500	3,000	1,500

〔収 2 事業〕

≪高齢者・認知症疑似体験事業≫

・高齢者疑似体験事業

営業推進と WAC の強みである質の高い研修の提供を継続的に行うため、今年度も綿密な情報の共有化と役割分担を明確にして事業展開を行います。

1. 新規営業開拓

- ①クリニックや薬局など、高齢者と接する機会が増加しているところに対して、気軽に導入できる低廉研修パック企画を提案し、新規獲得に繋がります。
- ②令和元年度より、中学校の技術・家庭科に「介護」が追加されることを鑑み、都内私立中学校および各区役所高齢福祉課に対し「高齢者疑似体験研修」導入を企画・提案し、次年度以降も事業の柱となる研修の獲得に取り組めます。

2. 既顧客への取組み

- ①うらしま購入先や研修実施先に対し、疑似体験の活用方法に関する情報提供や特別価格販売のお知らせなど年に数回のフォローをきめ細かく行います。
- ②ニーズ喚起につながるように、既顧客の訪問活動に取り組みます。

3. 出張インストラクター研修を核とした、地域での高齢者疑似体験研修の拡散

従前より高知県社協においては継続的に出張インストラクター研修を行っていますが、以前行っていたが近年中断している地域や本部インストラクター研修に参加者の多い社協に対して出張研修を提案し、地域における「うらしま太郎」の活用活性化につながる取組みを行います。令和元年度は、テストケースとして沖縄県社協にて研修を実施することが既に決まっています。また、12月に広島のポイントでインストラクター研修を実施します。

・認知症疑似体験事業

認知症疑似体験事業は、ひき続き問い合わせが多く、きめ細やかに対応して研修獲得に努めるとともに、新しいプログラムを研究・開発して、事業拡大に取り組みます。

また、本部高齢者疑似体験インストラクター研修とあわせ認知症疑似体験インストラクター研修を実施します。

(単位=千円)

	収入予算	支出予算	収支残
高齢者疑似体験	17,000	10,000	7,000
認知症疑似体験	3,000	2,500	500

〔収3事業〕

《介護予防委託事業》

(品川区委託事業)

認知症、高齢者引きこもりの予防、生きがい・仲間作りの支援のため、自治体から介護予防事業として委託を受け、引き続き取り組みます。

・男の手料理教室、わくわくクッキング、食事処

事業は14年目を迎え、高齢者の介護予防事業として、東京ガスと協同で行っている品川区の委託事業です。教室受講生も運営する人も高齢者であり、料理を通じて、生きがい、健康、仲間づくりができており、介護予防事業として評価されています。令和元年度も引き続き継続実施します。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
4,700	4,600	100